

H A B A T A K I はたき

コミュニケーション版 vol.3

発行：北群淡川農業協同組合
〒377-0008
群馬県淡川市淡川157番地
TEL：0279(23)3315
http://www.jagunma.net/kitashibu/
発行者：代表理事組合長 保科 一穂
編集：はばたきコミュニケーション版編集室

情報誌「はばたき」は北群淡川農業協同組合が毎月組合員様に配布している広報誌です。今回、一般の方にもJAの活動を知っていただくためにコミュニケーション版として発行いたしました。食、農業の情報から皆様のくらしをサポートする情報、地域の皆様との交流等、地域に密着した情報を幅広く掲載いたします。



農家組合員宅を訪問し営農指導



営農指導員による農業体験



地産産の野菜を使った料理教室

組合員と、地域とともに ～協同の力で農業と地域の未来を拓く～

「地域活性化・農業生産の拡大・農業者の所得向上」を目標に
JA北群淡川は自己改革に取り組みます。



高校への交通安全教室



新規就農者への学習活動



管内小学生への食農教育

JA自己改革を取り巻く背景

JA・農業・地域を取り巻く環境

- ・政府の進める農協改革
・これまでJAが取り組んできた自己改革
- ・地域による農業形態の違い
・地域、農家の高齢化
・他業種との協力
- ・TPP、EPA等の外圧
・市場の競争激化
・マライナス金利

生産者の意見・消費者の意見・アンケート結果

- ・安全安心の農産物の提供
・農業者所得の向上
・農産物生産コストの低減
- ・営農指導の充実
・各事業の改善
・JA施設の利便性の向上
- ・自己改革への期待
・地域への貢献
・総合事業の強みを生かす

実現のための話し合い

- ・地域での事業内容説明会
・生産部会での話し合い
・女性部、青年部での意見交換
- ・地区、部会からの要望
・正組合員からの要望
・准組合員からの要望
- ・事業利用者からの要望

目標・今後の取組

- ・農家の所得向上
(販売力強化・生産コストの低減)
- ・支店の地域拠点化
(機能の見直し集約、協同活動への取組)
- ・くらしの豊かさの実現 (総合事業「信用・共済・経済・祭・地域組織」の発展、地域貢献)

3か年計画のもと 自己改革進行中です

JA北群淡川は、「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」の実現を目指すこととし、これに向けて様々な取り組みを行ってきた。平成26年には政府からの「農協改革」の提起に対し、平成25年度からのテーマを受け継ぎつつ検討を重ね、将来目指すべき「協同組合」としてのJAのあり方や、営農経済事業（農家組合員支援）の強化を盛り込んだ「自己改革」を策定しました。

自己改革は「地域活性化・農業生産の拡大・農業者の所得向上」の3つの大きな柱からできています。JA北群淡川はこれまでの実績を踏まえて、平成27年度から3つの柱を目標に各事業を展開しています。今回はJA北群淡川の「自己改革」の取り組みについてご紹介しま

農産物の生産振興

・JA北群茨川野菜重点3品目(チンゲン菜、ブロッコリー、ネギ)をはじめとした園芸作物や水稲など、各支所・営農エリアでの栽培講習会・現地講習会を開催し、栽培技術の向上支援を実施しました。

・営農エリアでの講習会には、多くの生産者に参加して頂き、エリア内での生産者同士での情報共有、交流を図ることが出来ました。



肥料、農薬部門において仕入れ並びに輸送コストの見直し、ホームセンターや量販店の価格調査を実施し、極力安価で良い品物を提供し、化成肥料でストダウンを並びに化成肥料14.14.14.5%の価格引下げが実現しました。

経営コストの低減への取り組み

伊香保温泉と連携し消費拡大

地産地消を推進しながら「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」を担える食材提供は年々件数が増え、今年は13軒となりました。伊香保温泉旅館協同組合婦人部「お香女会」と協力し騎寄パーキングエリアで農産物をPR。今後更に地域を盛り上げていきます。

・昨年から西洋野菜「トレビス」を生産者に紹介し、市場を介した契約栽培で現在15名が参加して新しい特産の一つとして育てています。



組合員組織の活性化 女性大学の取り組み

各種講習会を通じた女性部活動。仲間づくりを目的として開校した女性大学ではデコパージュを始めとする講習会を実施しました。各講習会を通じて女性部員の交流を深めました。

食農教育の拡大

アグリキッズスクールの開校や小学校での田植え学習。子供のころから農業に親しんでもらい、食べ物・農業の大切さを感じてもらおうと活動しております。親子で野菜を作ることの大切さを学ぶ場となっています。



販売機能の強化

地元産牛肉・豚肉の魅力と認知度向上・消費拡大を図るPRを行いました。生産者が丹精込めて育てた牛肉や豚肉を提供し、試食された消費者から大変好評をいただきました。地域和牛繁殖営の改善向上、会員相互の研鑽と緊密な連携を目的に、北群茨川和牛改良組合を立ち上げました。



各事業強化

・金融事業においては、利用者の皆様の満足度向上に向けて取り組みでいきます。ローン相談会や金のカンペーンを行い

ました。
・共済事業においては、インフラバイザーを中心として訪問活動を行い、共済契約保障内容等の点検確認を通じ、契約者の方々とつながりを深めています。

・福祉事業では平成13年より居宅介護事業、訪問介護事業福祉用具販売、貸与事業また、平成23年11月よりインサービスセンターひまわりを安心してご利用して頂けるよう事業を展開。平成28年7月に開所いたしましたインサービスセンターは「あの時の自分を取り戻すお手伝い」を理念に掲げ、順調に業務を遂行しています。



地域の農業を支える元気な人たち

未来の農業を活性化させるために活動する

栗田和巳さん

JA北群茨川青年部は、盟友数20人と少数ですが、魅力あふれる盟友たちと共に、JAの各種事業の積極的な参画や食農教育など、活発に活動しています。

当青年部は、今年度からJA管内の将来の農業ビジョンをJAと真剣に考えています。自分達が生涯にわたり共生できるJAの模索をJA役員員と行い、青年部活動の大半をこの部分に注力しています。農業者が個人で販売戦略を基軸にした経営を行う時代になり久しいですが、今一度JAの組織力を見直し、既存の農業法人以上の取り組みを行えば、JAは再び活気を取り戻すのではないかと考えています。

当JAの保科組合長が「これからの農業は青年部世代の時代。JAを利用してもらうための意見をたくさん出してほしい」と言われたのをきっかけに、今まで年1回のJA役員員との意見交換会が5回に増えました。盟友一人一人がJAの状況を把握し、議題を絞って討論しています。まだ回数は少ないですが、参加者全員の距離も



縮まり、具体的な提案も多く行えるなど、早くも成果が出ていると感じています。

これからはお互いの真摯(しんし)な対話がお互いを支え、結果として持続的な地域農業の発展へと進み、小さな農家でもJAをよりどころとして、大きな収入を得られるチャンスがあると感じています。幸いなことに、当青年部は絆が強く、志の高い盟友ばかりなので、思いを一つにし、管内の農業をJAから活性化していきけるような提案を行い、魅力あるJAになるように、少しでも尽力できたらと考えています。



活発な青年部活動をリードする栗田さん(群馬県吉岡町)

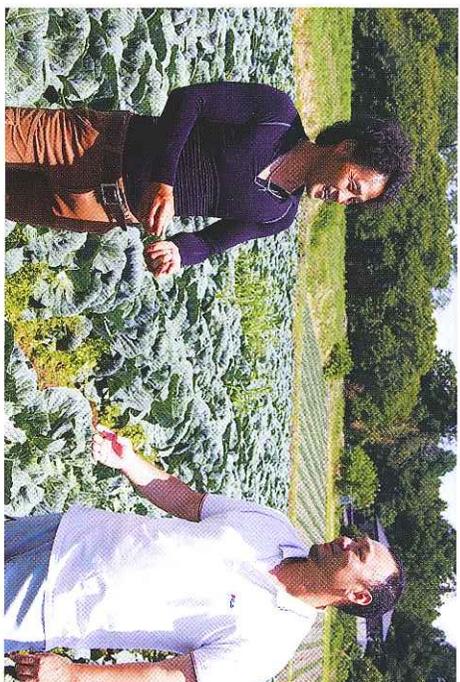
JA北群茨川 本所 ☎0279-23-3315

子持支所 ☎0279-53-3606
金鳥支所 ☎0279-23-2131

小野上支所 ☎0279-59-2016
茨川支所 ☎0279-23-2141

榛東支所 ☎0279-54-2201
豊秋支所 ☎0279-23-2151

吉岡支所 ☎0279-54-2081
古巻支所 ☎0279-22-0372



「協同組合」ってなんだらう？

一人でできないことも、

協力し合えば

できることがたくさんある。

「協同組合」という言葉を一度は聞いたことがあると思いますが、「北群淡川農業協同組合」もその一つです。農業は、私たちの「食」暮らしを支えます。しかし、一人が野菜を作っても、多くの人の「食や暮らし」を支えることはできません。多くの人が集まり、互いに協力し、助け合って生産することで、たくさんの生産物が生まれ、生産者だけでなく、多くの人の生活が豊かになります。今回は「協同組合」についてご紹介します。

Q 協同組合って何の組織？

A 「協同組合」は同じ目的

を持つ人同士が集まって組織しています。ひとりでは、経済的に活動が難しい立場の農業者・漁業者・林業所有者、規模の事業者の方たちが集まって、目的達成のために力を合

わせます。連帯して助け合う「相互扶助」の精神のもと、生産や生活を守り、その向上を目的に、協同組合に参加しています。この参加者を「組合員」と呼んでいます。

Q 協同組合と株式会社の違いって何？

A

違いは①目的 ②組織している人 ③利用者 ④運営者 ⑤運営する方法と5つあります。「協同組合」は組合員の集まりで、組合員の生産や生活を守り向上することが目的です。組合を組織するものが事業を利用し、運営もを行います。そのため、組織者と利用者との運営者が同じ、みんな平等なのです。下の表に違いをまとめました。

株式会社

1 目的
事業を通じた関係者へのサービス提供と還元

2 組織
組織している人たち

株主
投資家
法人

3 利用者
不特定多数の顧客

組合員
農業者
漁業者
森林保有者
勤労者
中小企業の事業者など

組合員の生産と生活を守り、向上すること

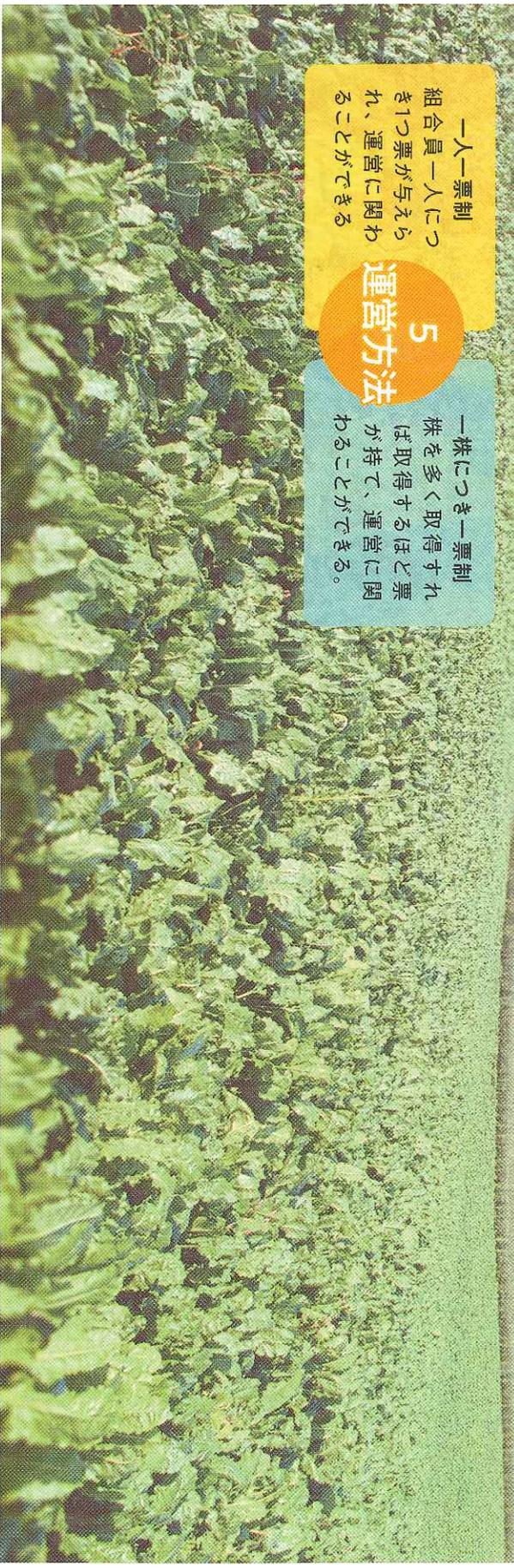
協同組合

4 運営者
株主に代わって運営する経営者

組合員とその代表者

5 運営方法
一人一票制
組合員一人につき1つ票が与えられ、運営に関わることができる

一株につき一票制
株を多く取得すれば取得するほど票が持て、運営に関わることができる。



JAは地元 に密着した 協同組合です

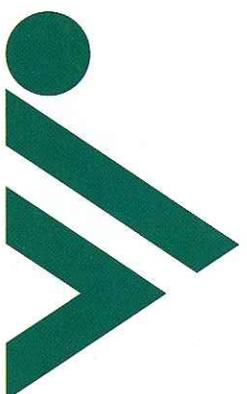
JAは農業者と地域の皆様が組合員となって組織した、地元

に密着した「協同組合」です。農業協同組合の事業には、農家組合員の農業経営を支援する指導事業や購買事業、組合員が生産した農産物を市場で販売する販売事業、農家組合員やその他の組合員、地域の皆様もご利用いただける信用事業（金融）、共済事業（保険）、葬祭事業、不動産事業、福祉事業、旅行事業などがあります。

また、農業と食と暮らしを守るため、子供たちへの食育活動や、地域との交流活動、福祉活動、学校給食への農産物提供なども行っています。

組合員には、農業を仕事とする「正組合員」と、JAの事業を利用する「准組合員」の二種類があります。正組合員はJAの経営に直接かかわります。正組合員の代表者が決定した経営方針により、JAは事業運営を行っています。

准組合員もJAの様々な事業をご利用いただけます。准組合員は事業利用を通じて、地域農業を応援してくださる方、地産地消に協力してくださる農家組合員の良きパートナーです。正組合員で、JAの事業がご利用いただけます。



JAとは
「農業協同組合」の英語表記で
Japan Agricultural Cooperatives
の頭文字をとってつけられた
愛称です。

**地域の
皆さま**

准組合員
農業以外のお仕事をしていて、
出資金を払い、JA事業を
ご利用している方

正組合員
農業をしている方

一人はみんなのために、みんなは一人のために

JA・農業協同組合の事業



組合員

信用事業
将来に備えての
貯蓄、融資

指導事業
農業における
技術や経営の指導、
サポート、暮らしの活動

購買事業
生産資材、
生活資材の供給

共済事業
万が一に備えての保障

**加工事業
販売事業**
直売所での販売
農畜産物の加工
農畜産物の集出荷

**市場・
消費者**

生活に関わる事業
介護、福祉事業、
健康促進活動、葬祭事業、
資産相談など

農畜産物の販売